

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第5部門第1区分
 【発行日】平成18年7月6日(2006.7.6)

【公表番号】特表2005-532497(P2005-532497A)

【公表日】平成17年10月27日(2005.10.27)

【年通号数】公開・登録公報2005-042

【出願番号】特願2004-518980(P2004-518980)

【国際特許分類】

F 0 4 D 1/00 (2006.01)

【F I】

F 0 4 D 1/00

【手続補正書】

【提出日】平成18年5月18日(2006.5.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

回転羽根を備えたロータと、複数の同心溝を備えたステータとを有する再生流体ポンプであって、前記同心溝は、圧送溝部分を有し、前記圧送溝部分に沿って前記回転羽根は運動して、前記流体を圧送溝部分の入口と出口の間で圧縮するようになっており、前記複数の同心溝は、ストリッパ溝部分を有し、前記ストリッパ溝部分は、前記回転羽根が圧送溝部分の前記出口から前記入口に至ることができるようになっており、前記同心溝のうちの少なくとも1つは、少なくとも2つの圧送溝部分及び少なくとも2つのストリッパ溝部分とを有することを特徴とする再生流体ポンプ。

【請求項2】

前記同心溝の各々は、少なくとも2つの圧送溝部分及び少なくとも2つのストリッパ溝部分を有し、2つの流体経路がそれぞれのポンプ入口とそれぞれのポンプ出口との間に形成されるようになっていることを特徴とする請求項1記載の再生流体ポンプ。

【請求項3】

流体を半径方向最も外側の前記同心溝のそれぞれの圧送溝部分内へ流入させる2つのポンプ入口を有していることを特徴とする請求項1又は2記載の再生流体ポンプ。

【請求項4】

1以上の半径方向内側の前記同心溝は各々、単一の前記圧送溝部分及び単一の前記ストリッパ溝部分を有していることを特徴とする請求項1記載の再生流体ポンプ。

【請求項5】

前記単一の圧送溝部分のうちの1つは、2つの入口を有していることを特徴とする請求項4記載の再生流体ポンプ。

【請求項6】

回転羽根を備えたロータを有する再生流体ポンプ用のステータであって、複数の同心溝を有し、前記同心溝は、圧送溝部分を有し、前記圧送溝部分に沿って前記回転羽根は運動して、前記流体を圧送溝部分の入口と出口との間で圧縮するようになっており、前記同心溝は、ストリッパ溝部分を有し、前記ストリッパ溝部分は、前記回転羽根が圧送溝部分の前記出口から前記入口に至ることができるようにになっており、前記同心溝のうちの少なくとも1つは、少なくとも2つの圧送溝部分と、少なくとも2つのストリッパ溝部分とを有することを特徴とする再生流体ポンプ用ステータ。